

藤枝市オープンイノベーション推進事業に関する質問

見守りロボットを活用し、住みなれた地域で安心して暮らせるようにしたい

No.	質問内容	回答
1	<p>「想定する実証実験内容」について</p> <p>「キックオフメール(藤枝市の防災情報配信サービス)を利用者へ音声配信する」とあるが、</p> <p>(1)キックオフメールの仕組みとシステム連携が必須となるか</p> <p>(2)もし連携する仕組みをお持ちの企業さんがいらっしゃればご教示可能でしょうか?</p> <p>「緊急ボタンを押すと、家族に緊急通報を届け、委託警備会社がかけつけ等をおこなう。」とあるが、</p> <p>(3)市の委託警備会社は決定済みでしょうか?</p> <p>(4)警備会社と一部共同提案なども検討したいのですが、企業連携での提案はよろしいですか?</p>	<p>(1)キックオフメールを音声配信することは必須と考えています。</p> <p>(2)現在本市で使用している見守りロボットの連携システム構築は、日本電気株式会社が実施しています。ただ、現在の連携システムの流用は難しいとのこととです。</p> <p>(3)現状(令和4年度)のかけつけサービス受託業者はエスピートム株式会社となっています。</p> <p>(4)可能です。</p>
2	<p>現状藤枝市で導入している、「みまもりパペロ」は何世帯に普及していますか?また、その世帯は実験対象に加えた方が良いでしょうか。</p>	<p>R4.8.23時点で27世帯で使用されています。パペロを使用している方にも、実証実験の参加について依頼することも検討しております。</p>
3	<p>実証実験に参加いただく一部の高齢者の選定が必要と考えられます。その選定にあたっては、事業内での協議等で決める想定でよろしいでしょうか。</p>	<p>審査終了後、実証実験を行う事業者との協議で決定する予定です。</p>
4	<p>利用者の認識や熱中症アラートのために、ロボットと無線でつながるセンサを置く手段が考えられるのですが、ロボットと10メートル以内と設置条件があります。このような別センサを用いることは可能でしょうか?また電池駆動となりますため、おおよそ1年に一回の電池交換が必要となりますが、この運用は許諾可能でしょうか。</p>	<p>センサーを用いることは可能です。ロボットに付随するセンサーの機能について、ヒアリングの際に説明していただきたいです。電池交換については、もし電池切れが近いことが分かれば利用者も安心して使用できるかと思えます。</p>
5	<p>・安否確認、緊急連絡、防災連携はシステム連携ではなく、オペレーターによる作業での提案は可能か。</p> <p>例)</p> <p>安否確認:ロボットの利用履歴(発信内容やセンサ情報)をオペレーターが確認し、1日に1回も利用がない場合は、当該結果を関係者(家族など指定連絡先)にお伝えする</p> <p>防災連絡:キックオフメールを弊社担当者が受信。受信後、ロボットへテキストを配信するシステムに、キックオフメールの内容を打ち込み、送信。ロボットが打ち込まれたテキスト内容を発信</p> <p>緊急連絡:ロボットに発信された情報をもとに、オペレーターより委託警備会社の担当者宛に電話通知。</p>	<p>○安否確認 (例)のように1回/日以上、利用者の様子を確認し、関係者と連絡を取り合う体制ができれば問題ありません。</p> <p>○防災連絡 キックオフメールのやり取りにつきましては、ロボットを所有する全世帯に同じタイミングで、藤枝市の発信から大きく遅延することのないように発信ができれば問題ありませんが、オペレーターが打ち込む際の流れの詳細や入力内容の確認体制について、ヒアリングの際に説明していただいたうえで判断させていただきたいです。ただ、担当者が受信してから情報が提供されるまでに時間を要するものと思えます。また、担当者が常に注視しなくてはならず、そこでヒューマンエラーを起こす恐れがあると思われます。確実に提供しなくてはいけない情報であることから、効率的かつ確実性が担保されるものにしていただきたいです。</p> <p>○緊急連絡 1回/日以上、ロボットの使用確認がとれない場合やボタンを押した場合に利用者と緊急連絡先と連絡をとり、駆け付け等の対応をすることを希望します。</p>
6	<p>・ロボットにカメラがないため、撮影機能なしにてお願いしたい。</p>	<p>撮影機能につきましては、現状のパペロに備わっている見守り機能の1つとして要望しているものであるため、撮影機能が用意できない場合には、撮影に代わる見守り機能の説明を提案に含めてください。</p>
7	<p>・今後想定しているロボットの利用台数をご教示ください(または現在パペロの台数でも構いません)</p>	<p>R4.8.23時点で27台のパペロが使用されています。少なくとも、30台ほどは設置できる状態が望ましいです。</p>
8	<p>・今年度の実証を、最大10台まで制限させていただくことは可能でしょうか?</p>	<p>実証にあたり台数の規定はありませんが、本市の課題解決への効果測定・評価ができる根拠を示してください。</p>
9	<p>○安否確認・緊急連絡</p> <p>・現行の運用ルールやサービスレベルを共有いただけないでしょうか。かけつけが必要、など緊急度の高いものをどこまで対応すべきかの参考にしたいです。</p>	<p>現状のパペロの場合、緊急ボタンを押した場合、1日に3回連続写真撮影ができない場合に別に委託している警備業者へ連絡がいき、利用者宅に電話をし、応答がない場合には登録している緊急連絡先へ連絡をし、緊急連絡先の方が様子を見れない場合には警備業者の方で駆け付け業務を実施しています。駆け付けた際に、自宅での応答が無い場合に緊急連絡先の方と相談をいたうえて、救急車を呼ぶ等の対応をしています。</p> <p>質問No.6のとおり、撮影機能ができない場合には、代替となる安否確認機能をご提案ください。</p>
10	<p>提案するロボットですが、今年度の実証実験は旧モデルとさせていただきますことは、こちらで判断してもよろしいでしょうか?</p> <p>仕様等は最新モデルと同様の機能のため影響はないのですが、実証数量や運用体制で、実証実験は旧モデルで進めたい次第です。</p>	<p>機能に差が無ければ旧型でも問題ありません。</p>

以上